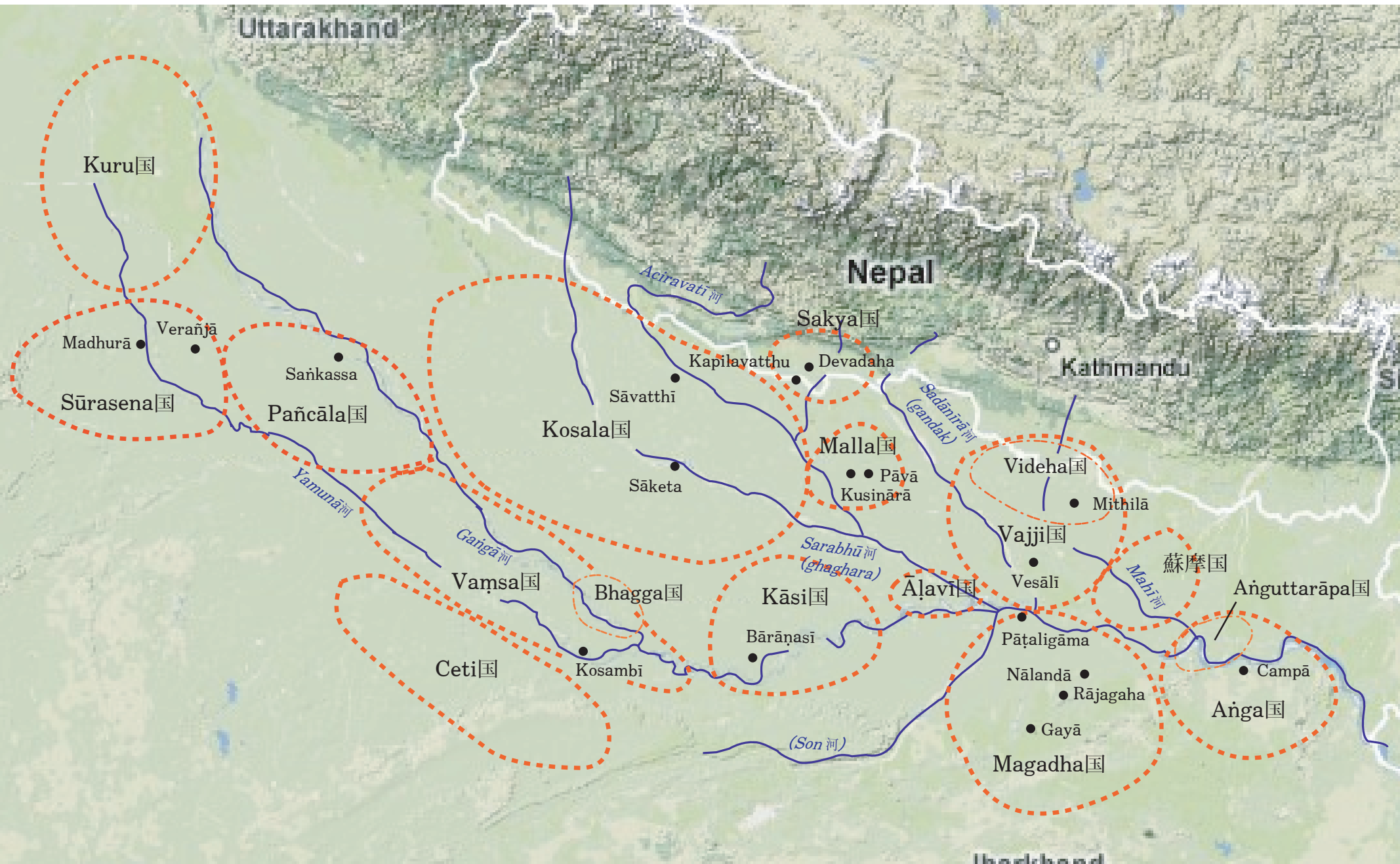


### [付3] 原始仏教聖典の仏在処・説処地図

#### 凡 例

- (1) 本地図は「モノグラフ」第2号、第4号、第5号、第8号と今号に掲載した「原始仏教聖典の仏在処・説処一覧」の「マガダ国篇」「祇園精舎（経蔵）篇」「祇園精舎（律蔵）篇」「コーサラ国篇」ならびに「その他国篇」において、仏在処あるいは説処として掲げられた国名と主要な都市を地図上に示したものである。したがってサーンチー（Sāñcī）とかパールフト（Bhārhut）などのような仏教遺跡として重要な地名が記入されていないのは、「原始仏教聖典の仏在処・説処一覧」には現れないからである。ただし Takkasilā や Patitṭhāna などは見出しにはなく、「記事」欄中に現れるのみであるが、参考のために掲げておいた。要するに本地図は「原始仏教時代の仏教地図」として理解していただければよいということになる。
- (2) 地図は「仏教中国」と「インド全域」に分けた。釈尊が足を踏み入れられ、実地に活動された地域は、この仏教中国の範囲である。
- (3) 「仏教中国」地図に太い点線で囲った部分は国の領域、細い点線で囲った部分はその属国の領域である。本「原始仏教聖典の仏在処・説処一覧」は、この太い点線で囲った「国」を単位として作成されている。なお Aṅga 国は Magadha 国の属国であるが、十六大国に上げられる国であるから、本一覧では独立国として扱った。
- (4) 本地図に記入した国や都市などの地図上の位置は、出版されている各種のインド地図や、従来の研究などを参考にして、現時点での本「原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究」によって得られた知見をもとにしたものである。特に Āḷavi 国や Bhagga 国などの位置は暫定的に示したものであり、今後さらに検討しなければならないと感じている。
- (5) 本地図はこの研究の研究グループが作成したものである。

[付3] 原始仏教聖典の仏在処・説処地図 (1) 仏教中国



(2) インド全域



Takkasilā

Sāgala

(1) 仏教中国参照

Ujjeni

Māhissati

Bhārukaccha

Patitṭhāna

Godhāvari 河